

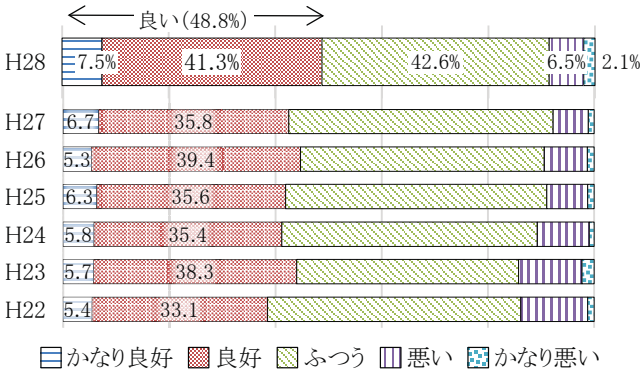
平成28年度 環境に関する市民意識調査 結果概要

- ・項目一覧(全36問)は5ページを参照してください
- ・全調査結果はホームページで公表します

環境問題に対する関心や行動について

- 横浜の環境の現状について、「かなり良好」および「良好」が48.8%で調査開始以来最も多い
- 関心のある環境問題は4年連続で「大気汚染」が1位
- 生活の便利さ、快適さよりも「環境の保全を優先」と考える市民が66.1%

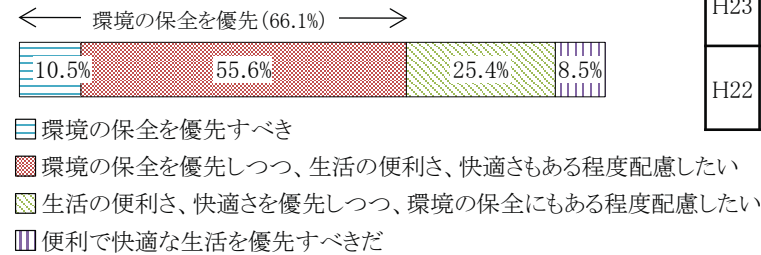
横浜の環境の現状について(Q1)



関心のある環境問題は(Q6)

	1位	2位	3位	4位	5位
H28	大気汚染 54.8%	3Rの推進 54.2%	食の安全 53.0%	地球温暖化 51.9%	水質汚濁 51.2%
H27	大気汚染	地球温暖化	3Rの推進	食の安全	水質汚濁
H26	大気汚染	水質汚濁	食の安全	地球温暖化	3Rの推進
H25	大気汚染	地球温暖化	3Rの推進	水質汚濁	食の安全
H24	3Rの推進	地球温暖化	水質汚濁	景観 (街並み、ポイ捨てなど)	ヒート アイランド 現象
H23	水質汚濁	大気汚染	地球温暖化	食の安全	3Rの推進
H22	3Rの推進	地球温暖化	大気汚染	水質汚濁	食の安全

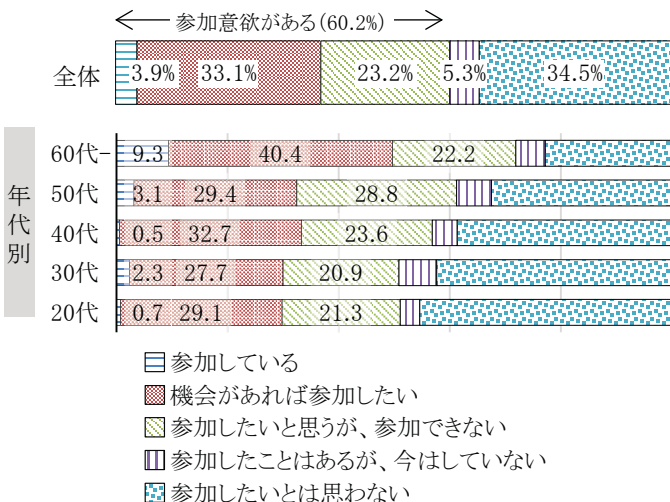
環境の保全と生活の便利さ、快適さについて(Q10)



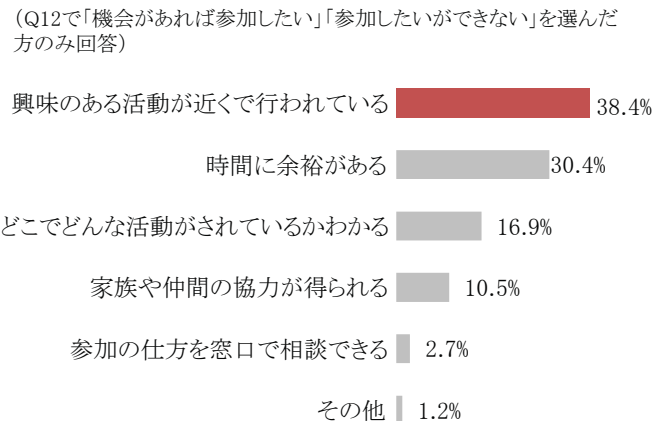
地域の環境活動への参加について

- 地域の環境活動へ参加意欲のある市民が60.2%、年代が上がるほど意欲が高く60代以上は20代の約1.4倍
- 「興味のある活動が近くで行われていれば」参加する市民が38.4%
- 環境問題や環境活動に関して、必要な情報が「あまり得られていない」「まったく得られていない」市民が74.9%、継続した広報活動が必要
- 環境の情報を得る主な手段は「テレビ」、「国、地方公共団体の広報誌」が上位

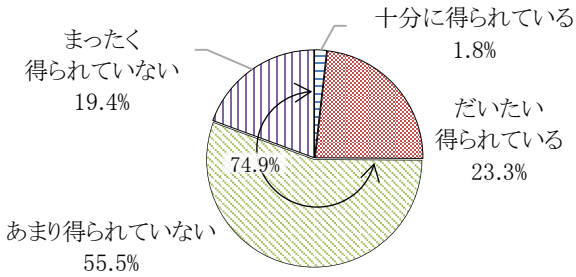
地域の環境活動に参加したいと思うか(Q12)



どのような機会があれば参加するか(Q15)



環境問題や環境活動に関して必要な情報を得られているか(Q17)



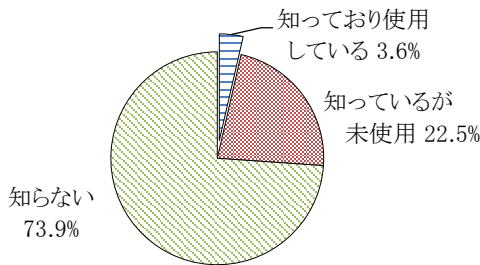
環境の情報を得る手段は(Q18)

1位	テレビ
2位	国や県、横浜市の広報誌・パンフレット
3位	新聞
4位	国や県、横浜市など公共機関のホームページ
5位	本・雑誌

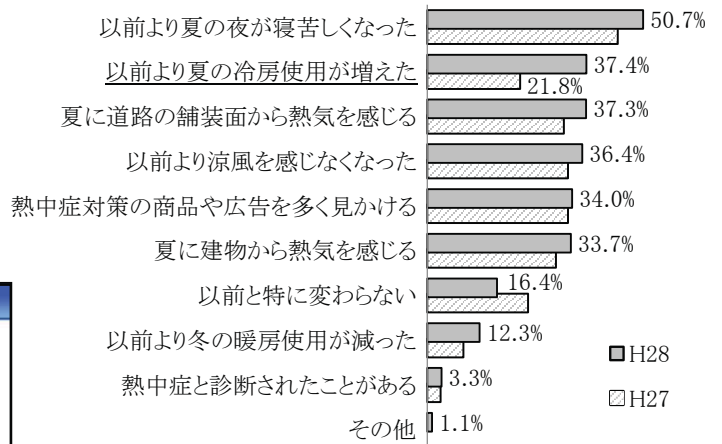
地球温暖化対策について

- 地球温暖化の問題に関心のある市民は51.9%(Q6)と多いが省エネ補助ツールの1つのHEMSの使用率は3.6%と低い
- 「以前より夏の冷房使用が増えた」は+15.6ポイントで上がり幅が最大、その他の項目についても「以前と特に変わらない」以外すべての項目で昨年度調査から上昇しており、ヒートアイランド現象の影響が年々顕著になっている

省エネ補助ツールのHEMSを知っているか(Q20)



ヒートアイランド現象で日頃強く感じるものは(Q22)



HEMSとは...

「Home Energy Management System (ホームエネルギーマネジメントシステム)」の略。読み方は「ヘムス」。家庭で使用される家電製品などをネットワークでつなぎ制御する、家庭用のエネルギー管理システム。HEMSにはエネルギー使用量を「見える化」する機能と、家電機器を制御する機能があります。



↑市ホームページからHEMS体験シミュレーションできます
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/ouchi/hems.html>)

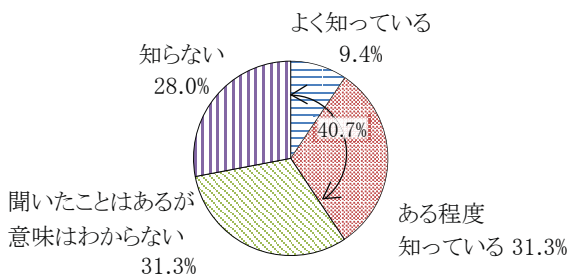
真夏日日数の比較

※真夏日：日最高気温が30℃以上の日
H28年7～8月 40日
H27年7～8月 38日
(出典)横浜地方気象台

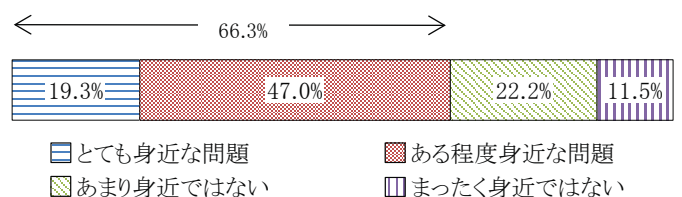
生物多様性について

- 「生物多様性」の言葉について、「よく知っている」「ある程度知っている」市民は40.7%で昨年度並み
- 生物多様性の危機を「とても身近な問題」「ある程度身近な問題」ととらえている市民が66.3%
- 市の生物多様性の取組で特に必要と思うものは「川、水辺の整備」、「外来生物への対策」などが上位

生物多様性という言葉について(Q23)



生物多様性の危機(開発や乱獲による生き物やその生息域の減少など)を身近な問題と思うか(Q24)



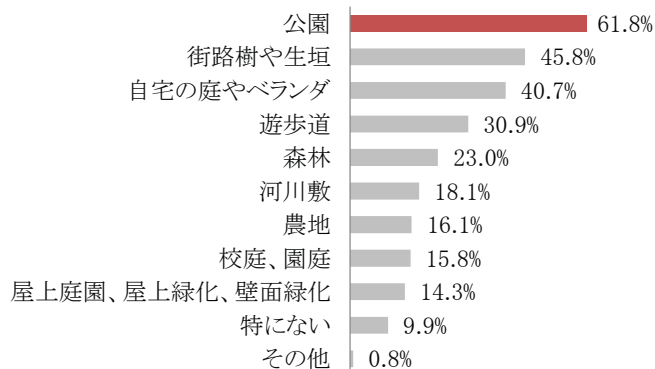
生物多様性の市の取組で特に必要と思うものは(Q25)

1位	2位	3位	4位	5位
生き物のすむ川、水辺の整備	外来生物への対策	都市部の緑の創造	希少な生き物の保全	土地の購入や契約などによる遺された自然環境の保全

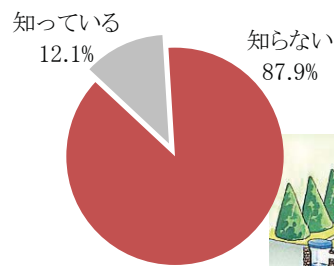
水と緑について

- ▶ 身近に緑を感じる環境は「公園」や「街路樹」が多く、市の緑に関する取組で成果を感じている項目(Q28)とも一致している
- ▶ 「住宅用雨水浸透ますの助成制度を知らない」が87.9%で昨年度並み。継続した普及啓発活動が必要

身近に緑を感じる環境はあるか(Q26)



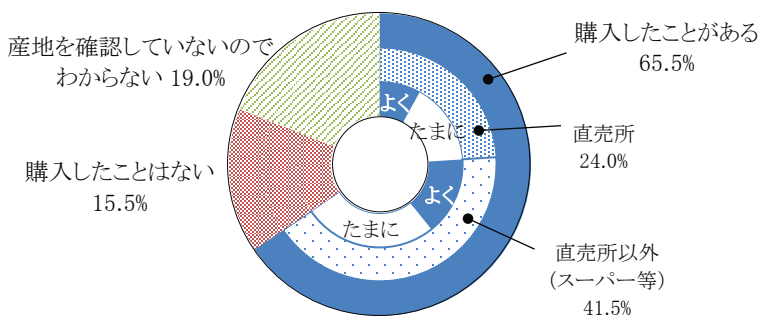
住宅用雨水浸透ます設置の助成制度について(Q30)



食と農について

- ▶ 横浜産農畜産物の購入歴がある市民が65.5%で、購入場所は直売所よりも直売所以外の方が多い
- ▶ 購入理由としては「新鮮な農畜産物を購入したい」が昨年同様に1番多い

横浜産農畜産物の購入したことはあるか(Q31)



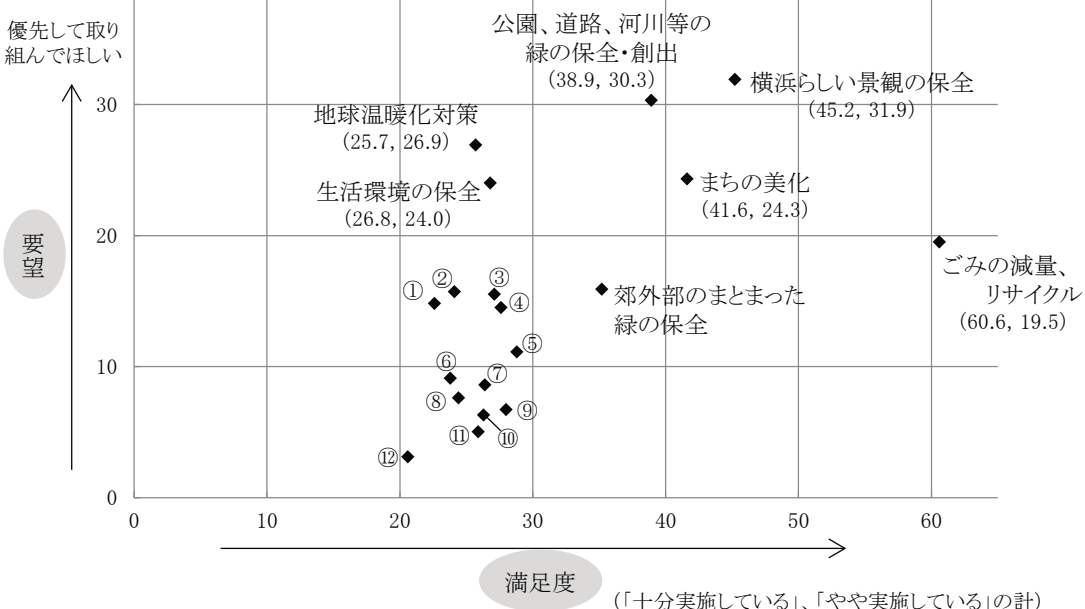
横浜産農畜産物の購入理由は(Q32)

1位	新鮮な農産物を購入したい
2位	地元の農家を応援したい
3位	おいしい農産物を購入したい
4位	農産物を安く購入したい
5位	生産者の顔が見える安全で安心な農産物を購入したい

市の環境施策について

- ▶ 優先的に取り組んでほしい施策は、例年同様「横浜らしい景観の保全」、「緑の保全、創出」、「地球温暖化への取組」が上位となっている
- ▶ 「ごみの減量、リサイクル」の取組への満足度が60.6%と最も高くなっている
- ▶ 満足度が低く要望が高い項目としては「地球温暖化対策」、「生活環境の保全」があげられる

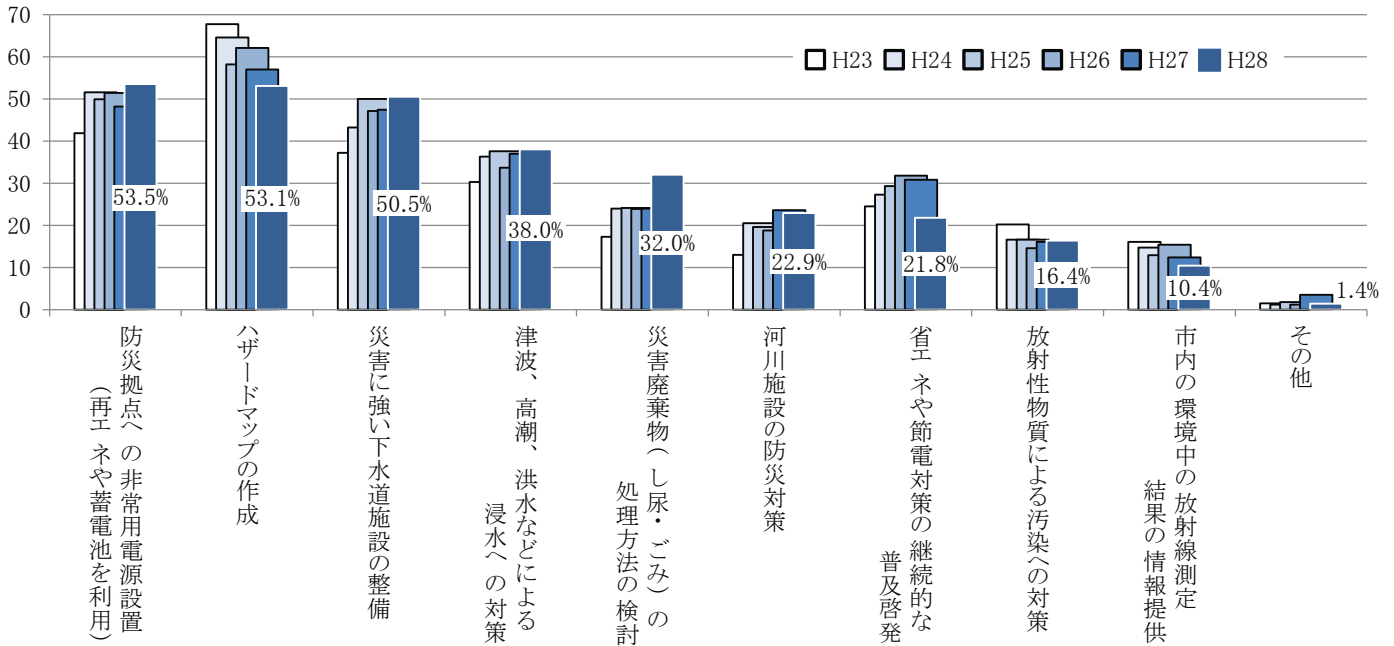
市の施策の満足度と要望(Q34、Q35)



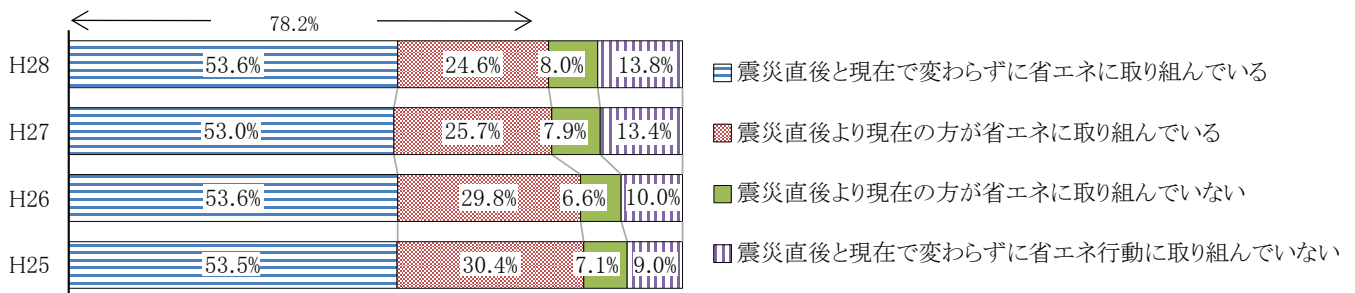
東日本大震災から5年が経って

- 優先的に取り組むべき災害対策と連携した環境行政として、「再生可能エネルギーや蓄電池等を利用した防災拠点への非常用電源設置」が初めて1位
- 「ハザードマップ作成」の取組については時間の経過とともに徐々に要望が低下。これは「内水ハザードマップ」など様々なマップが市のホームページ上で順次公開され、この取組が市民に浸透してきているためと考えられる
- 東日本大震災直後と現在を比較した省エネの取組状況については、78.2%の市民が変わらずに、もしくは、さらなる省エネに取り組んでいる。引き続き意識の低下を防ぐための啓発が必要

災害対策と連携した環境行政の取組として優先的に取り組むべきことは(Q36)



震災直後と比較した省エネの取組状況は(Q9)



Q&A

環境に関する情報を得る方法は？ エコぼるとって何!? 職員が自らツイッターでつぶやいている!?

——市民意識調査から情報が得られていないと感じる市民が多いようですが、ズバリどうすれば情報が得られるのか？

たくさんの情報からあなたに合った活動を探したければ「エコぼると」(市ホームページ)がおすすです。「エコぼると」では環境のことを「知りたい」「やってみたい」そんな皆さんにさまざまな情報を提供しています。「エコぼると」のイベント情報では、市内内外のさまざまなイベントから開催日や開催エリア、対象者層で絞り込みができるので、あなたに合う活動が見つかります。



<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kkjs/>

——ほかにはどんな情報発信をしているのか？

広報よこはま(毎月1日発行)や、各区役所、市民情報センターなどに配架されているチラシなどでも環境に関する情報をお知らせしています。6月は「環境月間」で、環境に関するイベントが数多く紹介されているのでよくチェックしてほしいです。広報よこはまでも6月号は環境に関する取組が特集されることが多いんです。

また、Twitterでも情報発信しています。環境関連のイベントや皆さんのエコライフに役立つ情報を我々職員が発信しています。こちらもぜひチェックしてみてください。



横浜環境情報
@yokohama_kankyo

平成28年度 環境に関する市民意識調査 項目一覧

(1) 環境問題に対する関心と行動	
Q1.	横浜の環境の現状についてどのように感じているか
Q2.	横浜の環境は10年前と比べてどのようになったと感じているか
Q3.	市内の満足度
Q4.	環境行動の状況
Q5.	環境に対する関心や行動
Q6.	関心のある環境問題や環境活動
Q7.	環境行動を実践するうえで難しい点、行動できない、行動しない理由
Q8.	環境に配慮した行動の後押しとなるもの
Q9.	東日本大震災の直後と現在を比較して、日常生活における省エネの取組状況
Q10.	環境の保全と生活の便利さ・快適さについての考え
Q11.	環境の保全と家計の負担についての考え
(2) 地域の環境活動への参加	
Q12.	地域の環境活動に参加したいと思うか
Q13.	どのような活動や取組に参加したことがあるか、参加したいと思うか
Q14.	どのような形態の活動に参加したことがあるか、参加したいと思うか
Q15.	どのような機会等があれば地域の環境活動に参加するか
Q16.	地域の環境活動に参加しない、あるいは参加できない理由
(3) 環境問題に関する情報収集	
Q17.	環境問題や環境活動に関して、必要な情報は得られているか
Q18.	環境の情報を得る主な手段は何か
Q19.	横浜市環境創造局で、情報を発信するためにツイッターを利用していることの認知
(4) 温暖化対策に関する設問	
Q20.	家庭でのCO2排出削減・省エネ行動を進めるための補助ツールの認知
Q21.	横浜市風力発電所(ハマウイング)の認知
Q22.	ヒートアイランド現象について、日常的に強く感じるようになったこと
(5) 生物多様性に関する設問	
Q23.	生物多様性という言葉の認知度
Q24.	生物多様性の危機が身近な問題と思うか
Q25.	「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」について、特に必要と思う取組
(6) 水と緑に関する設問	
Q26.	身近に緑を感じられる環境があるか
Q27.	公園や森林、水辺の広場など身近な自然環境に足を運ぶ頻度
Q28.	緑に関する横浜市の取組について、成果を感じているもの
Q29.	横浜駅周辺など都心部に緑や水辺が多くないことについてどのように考えるか
Q30.	横浜市が住宅用雨水浸透ますの設置に補助金制度を設けていることの認知
(7) 食と農に関する設問	
Q31.	横浜産の農畜産物を購入したことがあるか
Q32.	農産物直売所やその他の場所で横浜産の農畜産物を購入しようと思う理由
Q33.	市民農園で農作業を体験してみたいと思うか
(8) 市の環境関連施策の満足度と優先度	
Q34.	横浜市が現在行っている取組への満足度
Q35.	今後、横浜市に優先的に取り組んで欲しいこと
(9) 東日本大震災を受けて	
Q36.	防災・減災対策として優先的に取り組むべき環境施策

全調査結果は横浜市ホームページで公表します(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/chousa/>)